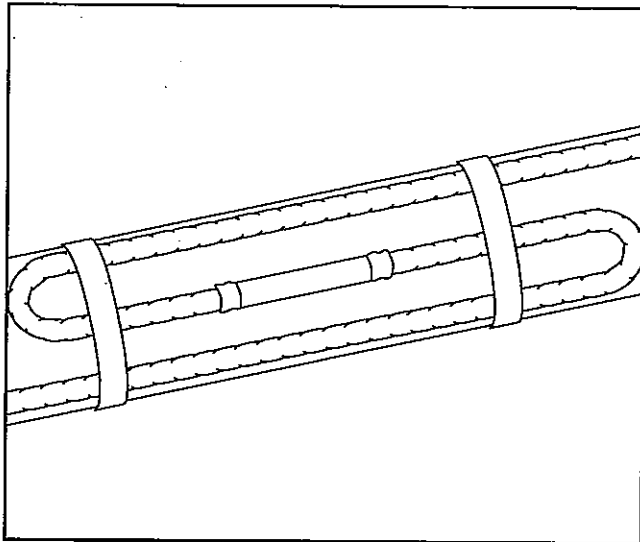


## 直線接続キット

### 施工要領書



#### はじめに

S-69は保温材の下に施工する直線接続キットです。本キットはXTV-CT、KTV-CTのヒータケーブルを直線接続できます。

#### 施工および技術サポート

本書以外の情報については、別途『施工および保守マニュアル』を参照してください。また、技術的な質問については弊社代理店あるいは弊社までお問い合わせください。

#### 必要工具

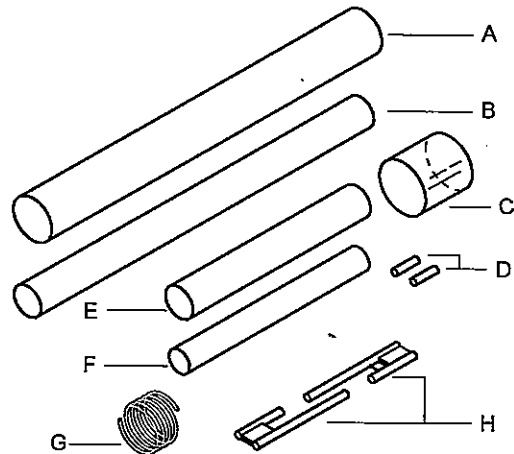
- ラジオペンチ ●筆記具 ●ニッパー ●カッターナイフ
- 圧着工具 ●ガストーチまたはヒートガン

#### その他必要な部材等

- ヒータケーブル固定テープ：GT-66 (5°C以上の施工時)
- GS-54 (-40°C以上の施工時)

#### キット内容

項目	数	名称
A	1	熱収縮チューブ (黒)
B	1	接着剤
C	1	熱収縮チューブ (透明)
D	2	圧着端子
E	1	熱収縮チューブ (黒)
F	1	接着剤
G	1	はんだ
H	2	絶縁スリーブ



#### 警告

本組立部品は電気機器です。適切な運転を確保して感電や火災を防ぐためには、正しく施工することが必要です。本施工要領書に記載されているすべての項目に従い、以下に述べる重要事項を必ずお守りください。

- 万一ヒータケーブルが損傷していたり、適切に施工されていない場合、放電火花による火災被害を最小限するために、さらに弊社の要求事項および電気設備技術基準に適合させるために、各ヒータケーブル分岐回路すべてに対し地絡検出装置を取付けること(ヒータケーブルのブレードには必ずD種接地工事を実施してください)。なお、従来の回路保護方式(配線用ブレーカ等)ではこの火花が防止できません。
- 指定された専用部品の使用により、安全性が確保されます。代用品やビニールテープ等の使用は避けること。
- ヒータ導線(母線)間の黒色部分(発熱体)あるいは

導線にらせん状に巻きつけてある黒色のファイバー(発熱体)は導電性があり、適切な施工を実施し濡らさないこと。短絡の可能性があります。

- 施工前と施工中において、キット、付属部品、ならびにヒータケーブルの両端末は決して濡らさない(乾燥させておく)。
- 損傷した導線は過熱したり・短絡したりする可能性があります。被覆や発熱体に切り込みを入れる際、ブレードや導線を損傷させないこと。
- 導線を互いに接触させると短絡します。導線同志は必ず離れた状態にして置くこと。
- 熱による損傷を受けた組立部品は短絡の可能性があります。
- 損傷を受けた部品は交換すること。
- ファイバグラス等の耐火保温材を利用すること。
- いつでも参照できるように、本要領書は大切に保管してください。


#### 注意

コアシール内に充填されたシーラントに長い間あるいは繰返し接触していると、皮膚への刺激を受けることがあります。しっかりと洗い流してください。また、シーラントを過熱したり、焼いたりすると目、肌、鼻、喉などに刺激性のあるガス(臭い)が発生することがあります。

240  
230  
220  
210  
200  
190  
180  
170  
160  
150  
140  
130  
120  
110  
100  
90  
80  
70  
60  
50  
40  
30  
20  
10  
0

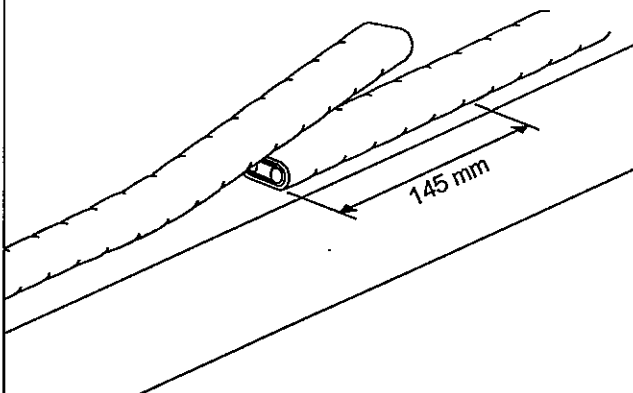
●このキットは下記の指定ヒータケーブルに対して使用できません。

XTV-CT  
KTV-CT



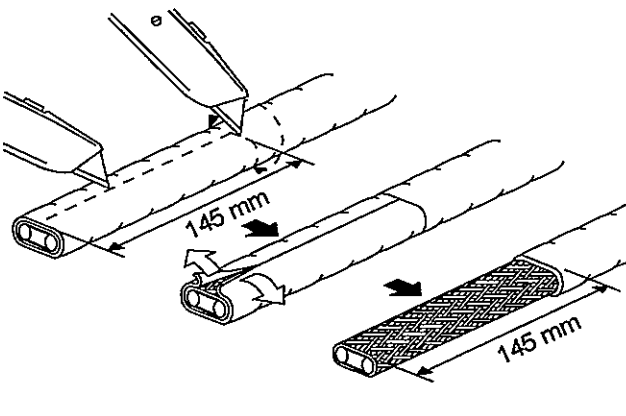
●-CR、CTタイプヒータケーブルの種類別構造図 XTV&KTV

1 ●ヒータケーブルを145mm オーバラップさせるように切断する。

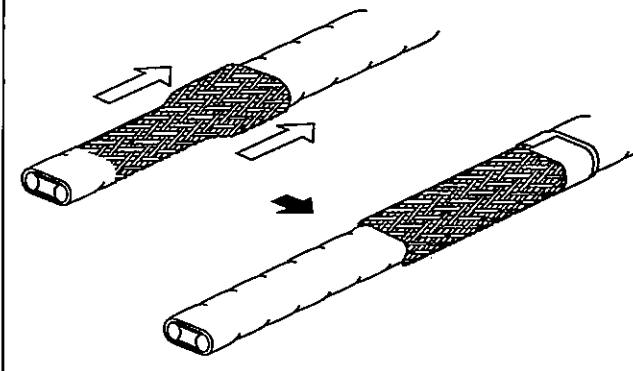


各ヒータケーブルに対してステップ2から6の作業を行う。

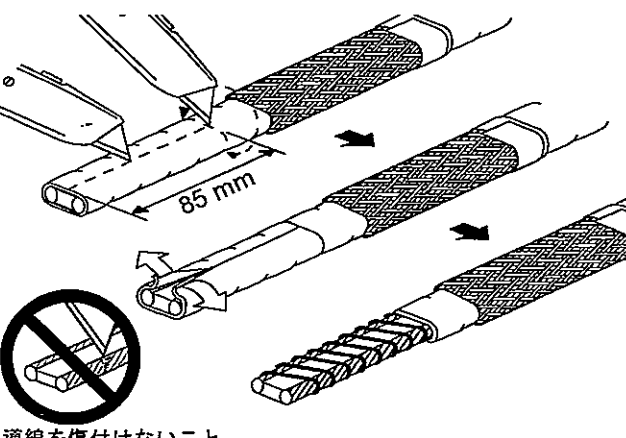
2 ●外層被覆の周囲および中央に軽く切込みを入れる。  
●切込み位置にてヒータケーブルを曲げ、切込み口を開き、外層被覆を剥ぎ取る。



3 ●外層被覆剥き出し部分の露出しているブレードをひっくり返して外層被覆の剥き出していない部分に戻す。  
●ブレードの端部をグラステープで固定する。

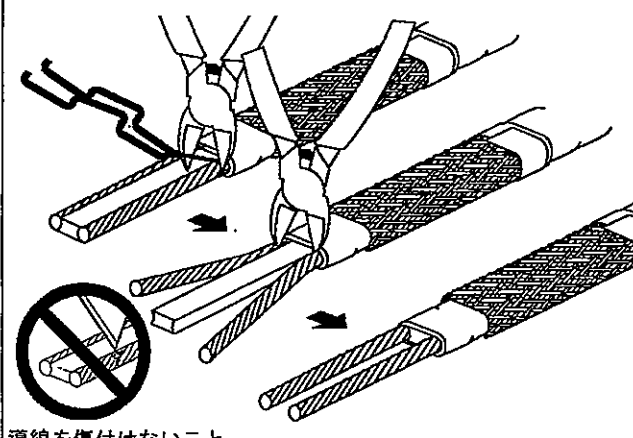


4 ●端末部より85mmの位置で内層被覆の周囲一周に軽く切込みを入れ、さらに縦に切込みを入れる。  
●切込み位置でヒータケーブルを曲げ、切込み口を開き内層被覆を剥ぎ取る。

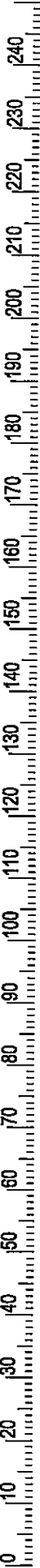
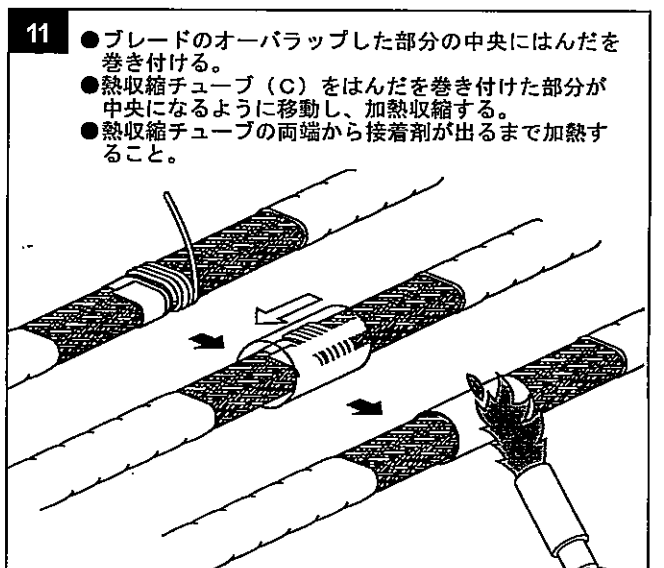
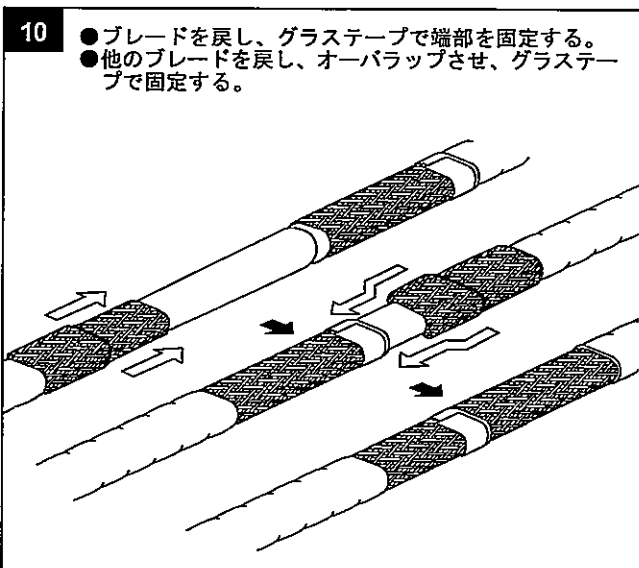
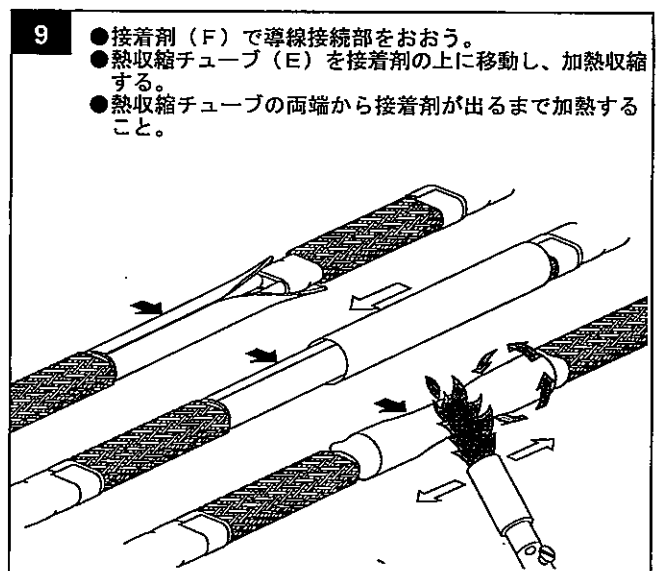
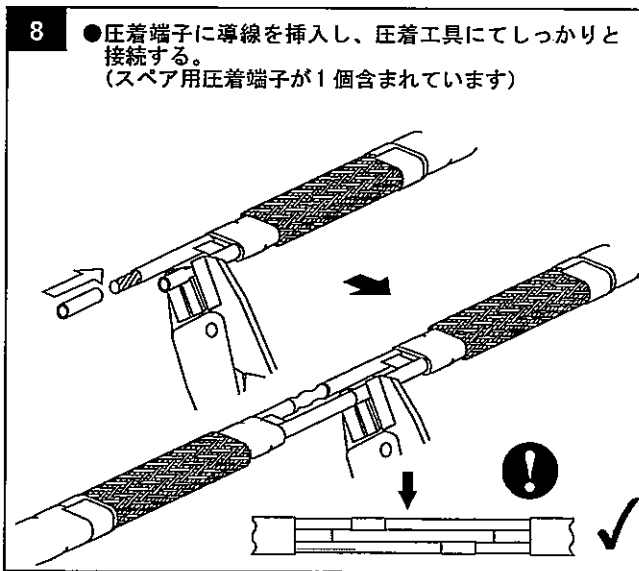
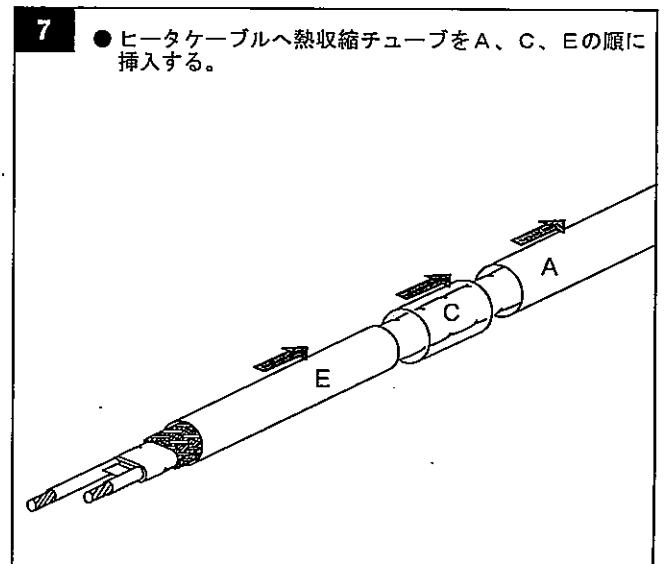
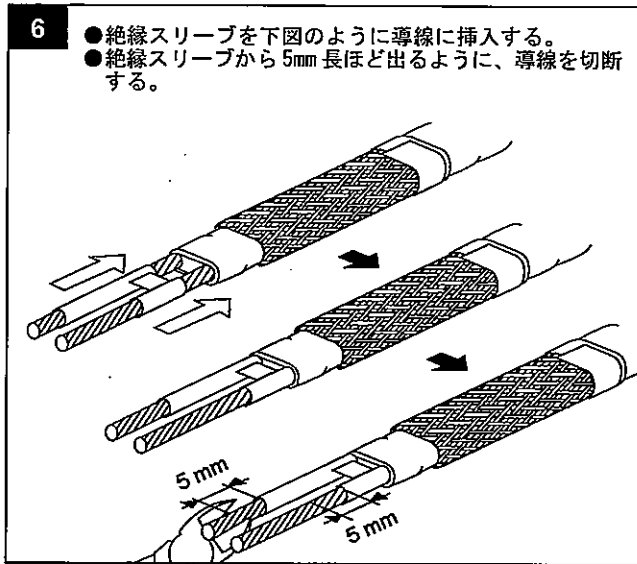


導線を傷付けないこと。

5 ●すべての発熱線を切断し、取去る。  
●内層被覆切出し部の導線間のスペーサに切込みを入れ、取去る。  
●導線に残った発熱線片をしっかりと取去る。

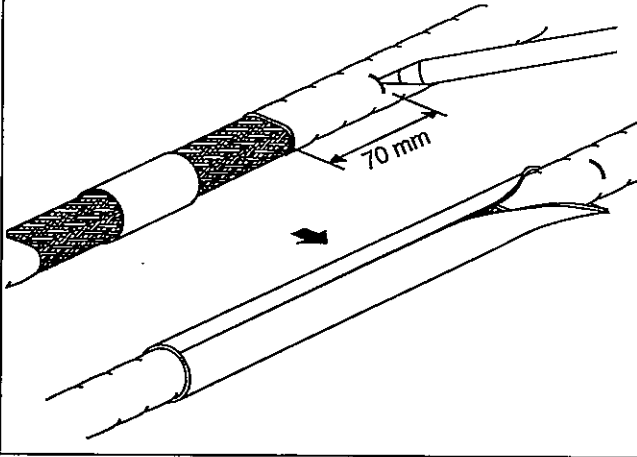


導線を傷付けないこと。



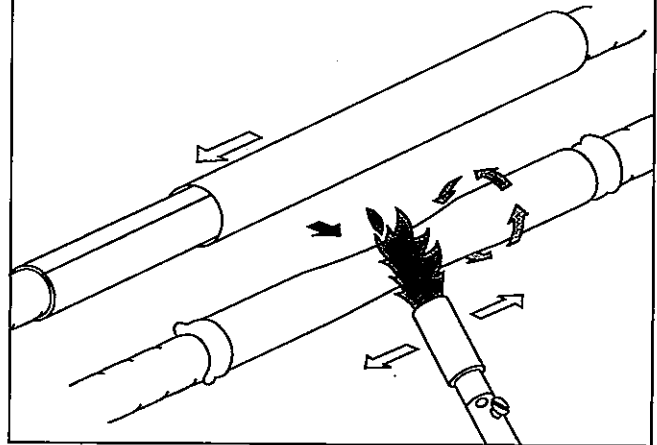
12

- ブレードが露出している部分から70mmのところの外層被覆にマークをつける。(一ヶ所のみ)
- マークした部分に合わせて接着剤 (B) でブレードを覆う。



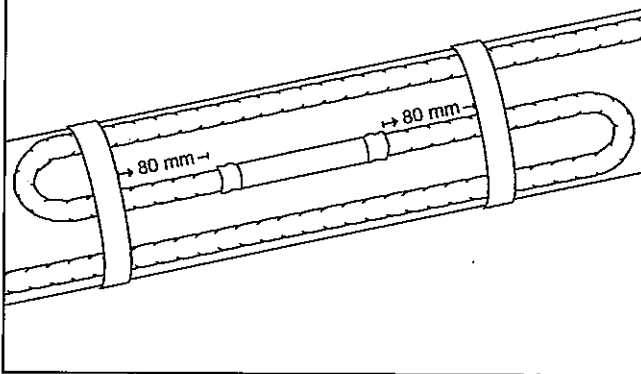
13

- 熱収縮チューブ (A) を接着剤の上に移動し、加熱収縮する。
- 熱収縮チューブの両端から接着剤が出るまで加熱すること。



14

- 直線接続部が冷えてから、配管にフラットになるようにグラステープでしっかりと固定する。

**tyco**

Flow Control

**Tyco Thermal  
Controls****タイコ エレクトロニクス レイカム株式会社**

〒214-8533  
川崎市多摩区登戸 3816 番地  
電話 044-900-5108  
FAX 044-900-5146

本カタログに記載する情報(図を含む)は、信頼のおけるものと考えていますが、その情報の完全性について保証するものではありません。ご使用の際には、選定した製品が用途に適合するかどうかについて貴社にて評価・確認していただくことが必要です。当社の責任範囲は、製品の取引条件にて確認されることのみであり、製品の使用、誤使用等によって起こった偶発的、間接的損傷については、製造物責任法で定める場合を除き責任を負いません。仕様の変更は予告なしに行うことがあります。また、仕様に影響を与えない範囲での材料、工程等の変更を行うことがあります。但し、別途契約書にて確認した取引条件についてはそれに従うものとします。